



2021年9月7日『朝礼時法話～報告事項』

法話概略【お彼岸】

秋のお彼岸（ひがん）がやってきます。お彼岸は、日本特有の行事であり、世界に類を見ないものです。「先祖供養」の要素が強くありますが、このお彼岸にお墓参りやお寺参りをするとところも多く見かけますね。

お彼岸の『彼』とい字には、『向こう側』『あちらの世界』等の意味が含まれています。この彼岸の対義語が、私たち煩惱衆生の生きている世界であり、『此岸（しがん）』と言います。（俗的な言い方では“あの世”と“この世”などと言いますよね。）

亡き大事な人の住む世界として、彼岸が語られることが多いわけですが、詳細を言えば、彼岸とは、亡き人たちの命が新たに仏様として生まれた世界『極楽浄土』です。対して此岸は今生（こんじょう）であり、「迷いの世界」を表しています。

こちらの迷いの世界から清浄なる世界に手を合わせる訳ですが、その間を隔てるように流れている川がありますね。これが世間的に言われる『三途の川』です。意識不明の重体等な方が意識を取り戻した際に、“三途の川を渡りかけた”とか“三途の川の向こうに亡くなった〇〇が立っていて、こっちに来るなというように手で追い払っていて、それでこっちに帰って来れた…”など語る方もいます。

実はこの川を創り出しているは、私たちの中の“煩惱”そのものと言えるでしょう。彼岸と此岸には本来隔てる川はなく、繋がった世界であるはずが、私たちの煩惱が川を作り、阻んでいるのではないのでしょうか。

お彼岸…大事な亡き人を通して自分を見つめ直す時…。大事な亡き人に素直に手を合わせるその人には、すでに清浄なる世界から迷い多き私たちの心を阻む川も消えて、清浄化するはたらきもたらされるのではないのでしょうか。特別な行事、ぜひ大切にお迎えください。



人事と職員について

今年度の事業計画でも、『下半期から人事異動も視野に入れて検討する』ことをお伝えしてきましたが、年度途中での異動は致しません。現場の安定と、まだ施設入居の定員も定まっていない事からも、このまま続投を決定致しました。引き続き宜しくお願い致します。

一方で、介護のこまち通りにSさんが数年ぶりに9月1日より復帰しております。こちらでも宜しくお願い致します。

【光寿会理事長】